

SHIN CLUB 244

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「LANAI GRACE KITA AOYAMA (ラナイグレース北青山)」 撮影：エスエス東京

今月のトーク/monthly talk

人の手が織りなす建物の魅力

写真は東京メトロ銀座線「外苑前」から徒歩5分、高徳寺境内に接する閑静な住宅街に竣工した共同住宅です。以前、芝公園でも施工させていただいた(株)ランドビジネス様の企画で、「北青山」の場所の特性を考えた、住宅兼事務所・SOHO の高級賃貸マンションです。周辺はハイグレードの大きなマンションやコンクリート打ち放しのミニマルな共同住宅など、デザイン性の高い建物の建設があちこちで進められています。そんな中、この建物は細部にわたり、きめ細かいデザインや色遣いが感じられる上質な趣をたたえています。

今回は、3-5月のコロナ自粛の中、リモートワークでお仕事をされている(株)ランドビジネス建築設計部部長矢野茂様に寄稿いただきました。まず、この建物の企画のお話から。

「街並みの中での魅力ある佇まい、風情」

建物の在り方としては新奇性を求めず、街並みの中での魅力ある佇まい、風情が50年、100年保たれるような懐の深い建物を目指しています。

魅力のある佇まい、風情を造り上げるには設計図も重要ですが、それ以上に現場での造り込みが重要になります。精魂込めて造られた「物」に人は魅力を感じ、感動しますが、「建物」も同じです。音楽に例えれば、設計図は楽譜であり、優れた指揮者、演奏者が

いて初めて感動的な音楽になります。建物も同様に設計図を読み込み、街並みの中でどのような佇まい、風情が可能かを深く考え、具体的に様々な材料を厳選しそれぞれの材料を生かし、匠の技を用いて調和のある全体を造る事で初めて人に感動を与える魅力のある建物になります。

「継続している時間の感覚」

ヨーロッパには風情のある街並みが多くあります。人々が共通意識を持ち長い時間と多くのエネルギーを掛けて造り上げられて来た街並みです。

仕事で行った時に泊まったイタリアの地方都市の小さなホテル、レストランは「新しい物」と「古い物」が互いにインスパイアされた豊かな空間があり、日常生活の中に「新しい物」、「古い物」単独では得られない豊かな空間が造られていました。そして街全体に継続している数百年の時間の中にあるような豊かな感覚がありました。(矢野様のテキストから。建物詳細についてはp2へ)

今回の工事では、前面道路、そしてお寺の境内へ延びる道と、参道へと続く小さな私道の整備も行いました。赤いレンガを敷き詰めた歩道は、この先の周辺の変貌も見据えて、近隣の人々に優しい暮らしやすい環境を整えています。

LANAI GRACE KITA AOYAMA (ラナイグレース北青山)



全景。白い外観に木製窓の茶色のフレームがアクセント

Charm Blanc 白い魅力 & 手の跡が感じられる仕上げ材料と施工

建物の仕上げのベースは Charm Blanc。ベースとして、白いタイル、白い大理石、白しっくい、白の EP 塗装等がそれぞれテクスチャを活かしてデザインされている。そして Charm Blanc の中に一つ一つ厳選された「手の跡が感じられる仕上げ」を施している。時代に流されることの無い建物にするためには、一つ一つの材料を慎重に選ぶ必要がある。しかし現在のグローバルリズムの中で、日本はもちろんヨーロッパでも味わいのある良い材料が無くなってきていて、手間のかかる「手の跡が感じられる仕上げ材料」も、採算が合わないため少なくなっている。

外壁の白いモザイクタイルは、数度の試し焼きを経て、風合いのあるタイルを使用し、面として一体に見えるように目地は3mmにしている。その白い外壁に、木製の窓、ブルーに塗られたスチールの手すり、アーリーモダンなガラス底の吊り金物でアクセントを付けている。

外構、ポーチの床は白い外壁、植栽の緑が映えるようにイタリア製アンティーク・せっ器質風のタイルを「千鳥貼り」にしている。

ポーチ、エントランスは、白い大理石を採石場である「Carrara の丁場」のような石の塊を組み合わせた CharmBlanc の空間に、イタリア・オペラ劇場のレリーフのレプリカ、そしてデンマーク・ロイヤルコペンハーゲンの「ブルーフィッシュ」を設えている。



Carrara の丁場



「ブルーフィッシュ」が迎えるポーチ、エントランス



地下1階のドライエリア

エントランスホールからは、中庭の白い大理石の泉から水が流れ落ちる様子が見える。ヨーロッパのプチホテルのような木製の階段で上がった2、3階の中廊下は、共同住宅に必要な電気、ガス、水道のメーターを極力目立たなくすることにより、ホテルの廊下のように設えている。各住戸の扉、サインは、日本の伝統色である「あざぎ色」に塗布している。

SOHO として使用される室内はシンプルな内装にしている。壁、天井はメンテナンスを考慮して EP 塗装、床は土足対応のフローリング風タイル貼り。洗面所、シャワールーム、キッチン廻りは、海外に数ヶ月前から特注していたモザイクタイルを「市松張り」で使用している。同様にタイルを市松貼りしたバルコニーは、空調室外機、湯沸かし器等を共用の設備バルコニーにまとめて設置し、個々のバルコニーを広く快適に使用できるようにした。地下1階の SOHO はドライエリアを広く取ることにより、地下とは思えないような明るさと広がり確保されていて、前面道路から直接入ることも可能な階段が設置されている。

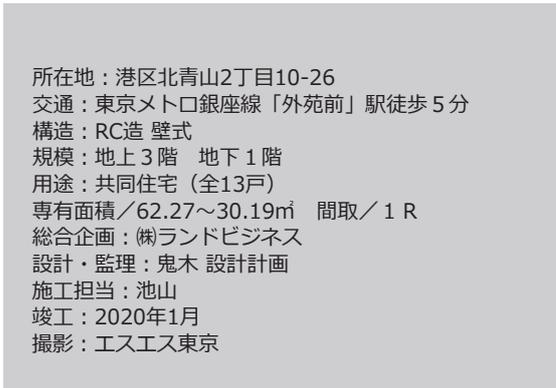
(株)ランドビジネス建築設計部部長 矢野茂氏寄稿
(構成：編集部)



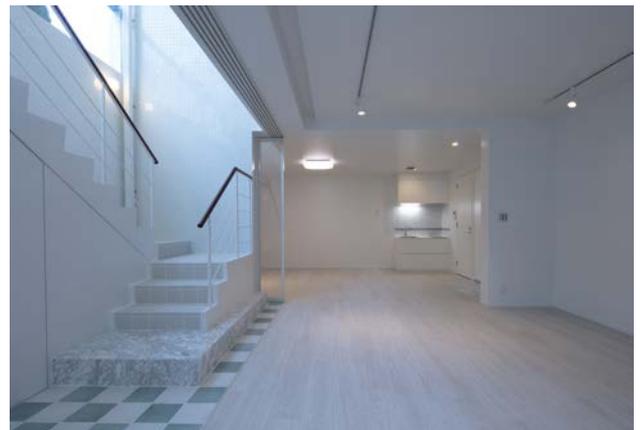
エントランスホール。左手に中庭が見える



ホテルのような3階廊下



SOHO の洗面所、シャワールーム



地下1階のSOHO。左手が直接前面道路につながる階段

所在地：港区北青山2丁目10-26
交通：東京メトロ銀座線「外苑前」駅徒歩5分
構造：RC造 壁式
規模：地上3階 地下1階
用途：共同住宅（全13戸）
専有面積 / 62.27~30.19㎡ 間取 / 1R
総合企画：(株)ランドビジネス
設計・監理：鬼木 設計計画
施工担当：池山
竣工：2020年1月
撮影：エスエス東京

東急番町ビル屋上リニューアル工事

築9年のオフィスビルに新たなスペース



エリア3…階段状デッキとDUNKWELLの
アートが創造的な空間を演出

JR市ヶ谷駅から徒歩3分、番町の交差点角地に建つ大型オフィスビルの屋上リニューアル工事を施工しました。全面ガラス張り、ワンフロア366坪の大空間を擁し、ハイグレードな設備を持つオフィスには、IT関連の会社が多く入居されています。リニューアル工事を企画された東急(株)ビル運営事業部運営第一グループ主事の田井栄次郎氏と、実施設計を担当された(株)OSKA & PARTNERS 代表の大平貴臣氏にお話を伺いました。

—リニューアル工事という、古いビルではよく聞きますが、築9年で実施されたきっかけは何でしたか？

田井：屋上に未利用スペースがあることは知っていたので、築10年を迎えるにあたり、「サードプレイスのような共用スペースを作って新しい付加価値を生み出して、周辺ビルからの差別化を図ろう」という提案をしました。

場所を変えて(Change of place)、気分転換(Change of pace)して、発想の転換(Change of viewpoint)をできるように、創造的でアートな空間をとという思いを込めて「PoC TERRACE(実証実験テラス)」と名付けました。ロゴの「→」はトライ&エラーを繰り返して欲しい—といった意味合いです。入居されているテナントの皆様の業種ともマッチすると考えました。



大平：改修エリアは、既存の目隠しスクリーンを中心に3つに分かれています。喫煙スペースや日よけの設置というご要望にお応えしながら壁面の多さを活かし、差別化を図るために全体としてアートギャラリーのようなテラスを提案させて頂きました。設計前の調査で、既存スクリーンは4m以上あり、かつ更に高さのある塔屋によって日影の時間が長く取れることがわかりました。そのため、日影時間やビューポイントなどからEV近くのエリア1に喫煙エリア(電子タバコのみ)、続く日影時間の一番長いエリア2にカウンターとソファセットのラウンジ空間、さらに見晴ら

しの良いエリア3に階段状のデッキを設けました。屋上の床には既存の配管が巡っていましたがEVホールからのエリア1には元々ダクトが上にしつらえてあったのでゲートに見えるようになりました。

—今回、設置し直したとばかり思っていました。大平：もう少し低かったらできなかったですね。今回、計画にあたって難しかった点として2つあり、1つ目はバリアフリーの認定を維持するために、改修する屋上もまた段差を解消するなど規定を守らなければいけなかったこと。2つ目は、耐荷重の余力が決まっており、デッキを新たに敷けないエリアなどが混在した点でした。既存の構造については原設計会社にご協力いただき助かりました。

—北側に広がるエリア3からの景色は最高ですね。

大平：エリア3の配管は階段状デッキで隠し、フロア中央が高くなったことで、ビルをめぐる柵を高くすることなく、景色を遠くまで見渡せるという効果も得ることができました。近隣のマンションへのプライバシーや安全への配慮もあり、柵はかなり引いたところに設置しています。

田井：築10年未満の新しい建物に投資をするという計画は挑戦でした。特に計画時は景気も上向きで空室がない状態でしたから。一方で、これからのオフィスは、選ばれる要素が必要不可欠です。入居されているテナントの皆様にとって魅力的でないと。例えば、採用活動においても魅力的な空間は大切です。面接に来た学生が、「このビルで働きたい！」とならないとダメなんです。企業を選ぶ指標は、年収だけでなく、働き方だったり、オフィス環境だったり、多様化しています。その気持ちに響くものを提供しなくてはならない。今回のコロナ騒ぎで「オフィスに来なくても仕事はできる」という考え方は少なからず広がっています。大きな落差を皆で経験し、時代は大転換を迎えています。それだけに魅力的なオフィス環境は益々大切になってくるでしょうね。

—一本日はありがとうございました。



田井氏(左)と大平氏(右)。東急桜丘町ビルにて



EVホールからエリア1に向かう配管のゲート



エリア1
写真上：before 既存の目隠しスクリーンは高さ4m以上
写真左：after 喫煙スペースと、将来日影を作る植栽BOX



エリア2
写真上：before
写真左：after 目隠しスクリーンにSAYORI WADAの外堀の波紋がテーマのアートを設置



エリア3
写真上：before 壁の下方に配管が見える
写真左：after デッキとテーブルに照明がともる

構造：S造 規模：地上11階 塔屋2階 用途：事務所・店舗
原設計：(株)東急設計コンサルタント 竣工：2011年9月

改修企画：田井栄次郎/東急(株)、舟橋菜々子/東急(株)
改修設計・監理：大平貴臣/(株)OSKA&PARTNERS

造園：吉良宗範/(株)日植ガーデン

設備：松本康宏/SBエンジニアリング(株)、石川龍/ソフトバンク(株)

改修工事引渡：2020年5月

施工担当：朴 撮影：Kenta Hasegawa (beforeはOSKA & PARTNERS 提供) (田井様と大平様の写真は編集部撮影)



「ヨコハマトリエナーレ 2020」7月17日（金）～10月11日（日） 於：横浜美術館、プロット48

出展アーティスト

「ファーミング・アーキテクト」の作品を辰が制作

今年で20年目を迎える、ヨコハマトリエナーレ。アーティスト・ディレクターに初めて外国人を迎え、新型コロナウイルス感染症の流行により2週間延期されましたがいよいよ7月17日から開催されることとなりました。

初の外国人ディレクターはインド出身の3人組「ラクス・メディア・コレクティブ」。参加アーティストの地域もアジアを中心に非欧米地域が多く、多様化している点も注目されます。

掲げるタイトル「AFTERGLOW ー光の破片をつかまえる」とは、ビッグバンの後、宇宙に発せられ、今も私たちに降り注ぐ光が時空を超えて広がるイメージ。5つのキーワード、「独学」=たくましく学ぶ、「発光」=学んで世界へと光を送る、「友情」=光の中で友情を育む、「ケア」=互いにいつくしむ、「毒」=否応なく存在する毒と共存する、とそれぞれ導き出されたキーワードに約70組のアーティストが応じます。新型コロナウイルスのパンデミックで「STAY HOME」を余儀なくされた世界を予見したかのようなメッセージが、街に活気をもたらします。

そしてこの度、その中のベトナム人アーティスト、「ファーミング・アーキテクト」の作品を辰が制作することになりました。「ファーミング・アーキテクト」は2017年にズン・アン・ヴィエットとニャン・アン・タンが設立。ハノイを拠点に活動している建築設計事務所です。

自然や地理、気候、人間に注目し、「都市に緑の種をまく農家のような建築」をコンセプトに、持続可能で環境にやさしい住居やカフェ、図書館などの建築設計、内装デザインを手がけており、ハノイの「KOI（鯉）カフェ」は、世界的な建築情報サ

イト ArchDaily の「Building of the Year 2018 Hospitality Architecture」に、また「VAC-LIBRARY」はアメリカ『TIME』誌による「World Greatest Places 2019」に選出されました。

「ファーミング・アーキテクト」の作品は、AFTERGLOW のコンセプトの『ケア』の項目に合致し、子供たちのためのライブラリー建築『VAC-LIBRARY』に関してもラクスが非常に興味を持ち、それらを備えた機能を依頼しました。エコロジカルな空間を子供たちがリアルに体験できる、トリエンナーレ全体の中でも大きな展示になります」と組織委員会事務局のキュレトリアル担当、倉茂なつ子さん。

「チケットは3密に配慮して事前日時予約制となっており、現在は7、8月分の申込みを受け付けています。たくさんの方にご来場いただきたいですね」とのことです。



プロット48に設置された作品「THE SPACE OF COALITION」



「Farming Architects」のメンバー。中央がズン



ライブラリーコーナー



AQUAPONICS SYSTEM
提唱する「循環型水槽」が木製構造物に組み込まれる

◇ヨコハマトリエナーレ 2020

チケットは日時指定の予約制です。下記からお申込ください。

<https://www.e-tix.jp/yokohamatriennale/>
一般 2,000 円 / 大学生・専門学校生 1,200 円 / 高校生 800 円 / 中学生以下無料（事前予約不要）
1 チケットで、横浜美術館、プロット48、日本郵船歴史博物館に入場できます。

横浜美術館への入場は、日時指定が必要です。

プロット48は、【横浜美術館と同日に限り】お好きな時間にご入場いただけます（ただし入場は閉場の30分前まで）。

「(仮称)世田谷区上馬1丁目計画」新築工事

安全祈願祭 6月7日



三軒茶屋駅よりほど近い住宅街。慣れ親しまれた銭湯の跡地に心機一転、緑豊かなアプローチに囲まれた共同住宅を建設致します。

構造：RC造

規模：地上5階

用途：共同住宅

設計：フリークス

完成予定：2021年5月

編集後記

・コロナ禍の下での取材では、ご協力いただいた皆様がリモートワークやマスク着用・手指の消毒の徹底、ソーシャルディスタンスなど、さまざまな対策を行っておられました。

(株)辰通信 Vol.244 発行日 2020年7月10日

編集人：松村典子 発行人：若本健寿

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570

FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。

バックナンバーもPDFで掲載しています。

スマホはこちらから→

